



武家の古都・鎌倉ニュース

◆ 推進協議会の合同部会を開催 ◆

鎌倉の世界遺産登録について松尾市長と意見交換

平成21年11月より鎌倉市長に就任された松尾崇市長をお招きし、平成21年12月9日、推進協議会の登録推進事業部会と広報部会との合同部会が開催されました。

今回の合同部会の主旨は、松尾市長に推進協議会の今までの経過や活動を知っていただくとともに、鎌倉の世界遺産登録に対して、市長としてどのようにお考えなのかを伺い、意見交換を行おうというものです。

まず両部会長と松尾市長の挨拶から始まり、次に各実行委員会の委員長から活動内容が報告されました。これらを踏まえて、意見交換が行われました。その概要を紹介します。

市長 推進協議会では数々の実行委員会が組織され、皆様がそれぞれの立場で活動されているということを、改めて認識させていただきました。

世界遺産登録に向けた取り組みは行政主導で進んでいくのではなく、行政が市民の方々のこうした活動をしっかりバックアップする必要があると思います。

選挙の際に、「世界遺産登録に積極的ではない」と発言いたしました。しかし、それは「観光の活性化とか商業の活性化のみが世界遺産登録の目的になってしまうと、世界遺産登録をめざす本当の意義が伝わらないのではないか」という危惧をもっていたからで、世界遺産登録に反対するということではありません。

市の財政状況は極めて厳しく、世界遺産登録についても、行財政改革の視点を持って進める必要があると考えていますが、皆様とともに「豊かな鎌倉づくり」をめざして、がんばっていききたいと思います。

部会員 行政の意気込みを示す意味でも、市役所や市の公用車、若宮大路などの公有地に、景観に配慮した形での看板などの宣伝活動が必要だと思います。

市長 7年前に視察した平泉では、町長の名刺や役場



挨拶をする松尾市長

の封筒などに「世界遺産」の文字があり、意気込みを感じました。目に見えることからやる必要は認識していき、景観を損なわない形で、できることはやりたいと思います。

部会員 セビリアで開催された世界遺産委員会に参加して、他国の文化遺産と比べても鎌倉の文化遺産は劣るものではなく、価値があると実感しました。鎌倉に足りないのは市民と行政の本気の議論だと思います。

部会員 登録を推進するなら、若宮大路などに看板があってもいいと思いますが、商店街などは盛り上がっていないと思います。推進している市議会議員の方は少ないようですが、議員の方々の熱意はどうですか。

市長 12月市議会の中で、3名の議員の方々から質問がありました。世界遺産登録を推進し、それにふさわしいまちづくりを進めてほしいという趣旨であったと理解しています。

部会員 鎌倉から世界遺産学を発信し、文化財と共存するまちづくりを進めたいと考えています。市長には今後もこうした場にお越しいただき、市民のエネルギーを吸収してほしいと思います。

部会員 世界遺産登録が実現しても、交通問題やトイレなどのインフラの整備も含めて、総合的にまちづくりを進めていただければと考えています。

市長 世界遺産は登録されることがゴールではありません。50年、100年先を見据えて、文化財の保護と息の長いこの鎌倉のまちづくりを、市民の皆様と一緒にオール鎌倉で取り組んでいきたいと考えています。

平成22年度総会にて、
松尾市長が推進協議会会長に就任しました。



合同部会 風景

追悼・・・インタビューで知った熱き思い

鎌倉の世界遺産登録と平山郁夫先生

鎌倉の世界遺産登録推進協議会特別顧問で名誉市民の平山郁夫さんは、自らの被爆体験に基づいて原爆ドームの登録に奔走されました。広島登録を踏まえて世界遺産登録に向け立ち向かおうという矢先の突然の死(2009年12月)は、鎌倉にとっても大きな衝撃でした。

写真は文化勲章受章の後、鎌倉の邸宅でインタビューに答える平山郁夫さん



1972年に高松塚古墳が発見され、師の前田青邨さんが総監修となり壁画の模写が始まり、平山さんは毎日東京から鎌倉の前田さんのアトリエに通いました。数回にわたるインタビューでは「鎌倉に住んだらといわれ、家捜しをしました。瑞泉寺に近い二階堂の屋敷はもと一高、東大のドイツ語の先生の家でした。夏目漱石も泊まりに来たことがあるという由緒あるところでした」と鎌倉との出会いを懐かしんでおられました。恐竜の研究で知られるご子息の平山廉さんは、「二階堂の早朝のアトリエの雰囲気非常に気に入っており、絵の創作に入りやすいと聞いた覚えがあります」と父の思い出に触れています。

平山さんは1994年秋、高德院で行われた鎌倉同人会80周年記念座談会で、鎌倉の文化・伝統に対する基本的な考えを述べておられます。世界遺産に対する平山さんの基本理念ともいえます。

「鎌倉は日本の歴史上、抜きがたい位置を占めています。そこに生きる文化や伝統を継続し、発展をはかることはとても意義のあることです。日本の歴史を一本の線と考えると奈良・京都・鎌倉は古代史につながる舞台になるわけです。鎌倉同人会はそういう歴史的遺産を乱開発から守っていく存在です」

広島生まれの平山さんは被爆体験を基にして原爆ドームを世界遺産にするため、奔走されました。登録に反対するアメリカの説得が主な仕事でした。原爆ドームには法律による保護措置がまったくなく、文化庁も及び腰でした。さらに建造物の文化財指定には、築後百年という条件があり、原爆ドームは対象外とみなされていたのです。平山さんたちの努力が実り1996年、史跡指定され世界遺産に登録されました。

1998年に文化勲章受賞直後のインタビューでは当時、鎌倉の世界遺産登録に向けて注目されていた「城塞都市」という考え方が話題になりました。鎌倉の邸

宅には玄関から応接間に至るまで、叙勲のお祝いのランの鉢植えがびっしり並んでいたのが印象的でした。「一度認定されると大きな変更はできません。鎌倉も同じです。城塞都市というのは自然の山に囲まれ切通で守られているのが特徴です。計画や趣旨はいいのですが、世界遺産となると総合的な保存が大切です。応仁の乱にもかかわらず、京都には由緒あるところがたくさんあります。奈良にもたくさんモノが残っています。鎌倉はそれほど豊かではありませんが、いくつもの切通で守られてきました。これは文化遺産の理由になります」

鎌倉には平山さんの遺産がいくつもあります。鎌倉芸術館の緞帳には大海原に朝日が昇る雄大な情景が描かれています。1984年以来、作家川端康成、画家小倉遊亀、漫画家横山隆一と続いた鎌倉文化人のビデオでは、名誉市民となったのをきっかけに昨年、「鎌倉に生きる平山郁夫」が完成したばかり。その中で妻の美智子さんは、シルクロードの作品で知られる平山さんはもともと意識していたわけではなく、仏画を描くために歩いたところを点として残していたら、シルクロードのラインになっていたと言っておられました。

18年前の芸術館建設当時から平山さんに接してきた鎌倉市の前生涯学習部長の金川剛文さんは、一昨年、平泉の落選が決まった時、「先生は世界遺産については、鎌倉の推薦書が出て、審査の段階に入ったらいくらでも協力したいと胸の内を明かしておられました」と言っています。時を同じくして平山さんは、推進協議会の特別顧問に就任されました。何か心に期することがあったのでしょうか。

昨年春、市役所正面玄関前に完成した石碑には平山さんの筆による平和都市宣言が彫りこまれています。平和の使徒としての最後のメッセージと言えるでしょう。

(高木規矩郎)